

未来へ

まちづくり
と
まちづくり
まちづくり

町制施行80周年記念
長崎県佐々町町勢要覧



豊かな自然にさざめき　ときめきを生み出す佐々町
まちは人を支え　きらめく人々はまちを未来へとつなげていく

未来へ

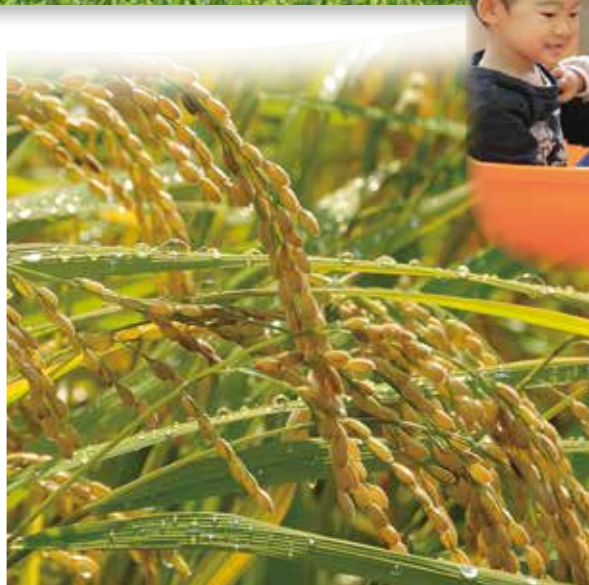
さざめく

人と自然がさざめき
生命力にあふれる
賑わいのまち



ときめく

ときめくまちは
人を支え
ちからを生む



第 1 章 さざめく

環境	6
さざめき探検隊	8
佐々町 80 年のあゆみ	12

第 2 章 ときめく

文化	18
ときめく佐々にかかせない存在	20

第 3 章 きらめく

We ♥ 佐々	24
暮らし	27

20 年後の佐々町未来予想図	30
佐々町に対する想い	31

町長挨拶	34
佐々町マップ	35



まちをつくるのは人
きらめく人が
まちを未来へと
つなげていく

きらめく



佐々町概要

Information

町章



佐々町の頭文字「サ」を図案化し、町民の親睦融和と平和団結を表すとともに、町の輝かしい産業・文化の向上、発展を単純明快に象徴化したものです。
(町制施行35周年記念にちなんで一般公募の入選作品)

町歌

[作詞] 山口 照代
[補作] 江島 子秋
[作曲] 深町 一郎

三 文化はぐくむ 皿山の
さざんかおる ふるさとに
力あわせて はばたけわれら
あ、永遠に 佐々町は
夢あり 愛あり 栄あり

二 おどる銀りん 佐々川の
流れに浮かぶ 城の辻
希望に燃えて 伸びようわれら
あ、明日ひらく 佐々町は
夢あり 愛あり 力あり

一 仰ぐみどりの 鷲尾岳
島影映ゆる 西海に
強く雄々しく 生きようわれら
あ、美わしの 佐々町は
夢あり 愛あり 誇りあり



町域	面積	平均気温	平均湿度
東西6.5km 南北8.0km	32.26km ²	約17度	約65%

町花

山茶花
(さざんか)



町民憲章

昭和56年4月1日 制定

佐々川の清流と緑の自然にはぐくまれ、だれでも住みたくなる町づくりのねがいをこめて、ここに佐々町民憲章を定めます。

1. 健康で明るい家庭をつくりましょう
1. 老人をうやまい健全な青少年を育てましょう
1. きまりを守りよい風習を育てましょう
1. 意見を出し合い人の和を尊びましょう
1. 教養を高め文化の向上につとめましょう
1. 自然と公のものを大切にし
町の美化につとめましょう



第1章

はじめ

人と自然がさざめき
生命力にあふれる
賑わいのまち

未来へ



環境

Environment



緑と水に恵まれた 豊かな環境

長崎県の北部に位置する佐々町は、周囲は佐世保市に囲まれ、東境に葦岳から牟田原に連なる山脈があり、西境の盲ヶ原から北境の鷲尾岳までは江里山脈が連なっています。この間に佐々谷と呼ばれる縦谷が形成され、国見山（佐世保市世知原町）に源流を発する佐々川が町の中央を北東から南へ貫流し、これに沿って町が展開しています。

恵まれた温潤な自然条件を活かし、平野部や中山間地では水稲栽培、いちご栽培が行われています。住みやすい環境整備にも取り組んでおり、平成23年には西九州自動車道佐々インターチェンジが開通し、交通アクセスが格段に向上しました。





町のシンボル佐々川

長崎県第2位の長さを誇る全長21・9キロメートルの佐々川は、国見山の国有林を源流とし、世知原の森を抜け、水道水や農業に活用されています。

この川の恩恵を受け、佐々町は開けてきました。美味しいお米や野菜を育て、生活に欠かせないものとなっています。

町の中心を流れる佐々川は、人々の生活の中心にあります。



美しい水質環境

以前は炭鉱の町として栄え、掘り出した石炭を洗うため、佐々川は黒く濁り「ぜんざい川」と呼ばれたほどでした。

今では大きな工場を有しながらも、川にはシロウオやアユ、ハクセンシオマネキ、うなぎ、河口付近には、めずらしいカブトガニまで生息しています。汚染に敏感なカブトガニが生息することは、水が美しいということ。

この川を守るため、清掃活動や水環境浄化活動等、様々な取組が行われています。



穏やかな弧を描きながら、悠々と流れる佐々川。

川面はきらめき、まさに清流と呼ぶにふさわしい。

昔からこの川の恵みを受けて、まちは繁栄してきました。

水を引き、水田を広げた豊かな大地。

春のシロウオ、夏の鮎、そして秋は銀うなぎ。

豊かな「いのち」を育む佐々川を

郷土史家・みかづき ゆうすけ 鮎 由典さんとめぐってきました。

佐々川
PICK
UP!

さざめき探検隊



ピナピナの 鮎が育つ川

佐々川は全長約22キロあり、そのうちの6キロが佐々町の中心を流れています。県北で一番長い川です。

「佐々の歴史は朝鮮半島からの渡来人が佐々川の支流である江里川の扇状地で、米づくりを行ったことから始まります。」鮎さんは、佐々川流域の開発がまちの歴史を作ってきたと言います。室町時代になると大規模な干拓が行われ、本格的に佐々川本流の水を利用した水田が広がり始めます。長い水路を作り隔々まで水を配る土木技術が導入されたのです。江戸時代の干拓は大規模で、水田は河口一円まで拡大しました。今では米どころの町として知られています。

大地の恵みを育む佐々川には、多種多様な生き物が生息しています。特筆すべきは鮎。「シーズンは6月から9月まで。釣り場選びのポイントは鮎の食み跡です。石についた藻類を櫛（くし）のような歯で削り取った跡です。」鮎さんはそう言って、川の底にある石を指さしました。そこには鮎の歯で削られた笹葉状の模様がいくつも残っていました。



佐々川には鮎が上流へ
上りやすいよう「魚道
(ぎょどう)」という魚
専用の道がつくられて
いる。また佐々川には
ダムがない。これが命
を育む決め手になって
いる。



鮎のことになれば目が輝く拙さん。
鮎釣り歴48年で、佐々川に鮎が復活し
て以来、友釣りをたしなむ人として、
知られています。「私の父が子どもの
ころは、石を投げれば鮎に当たるとい
われるほど鮎が群れていた佐々川でし
たが、昭和30年ごろから石炭を洗った
水の流入で川は黒く濁り、鮎はいな
くなりしました。昭和45(1970)年、
佐々川沿いの炭鉱がすべて閉山し、清
流が戻ってきました。すると驚くこと
に、翌年には鮎が爆発的に復活したの
です。昭和46年の10月、新佐々橋下流
の淵で産卵を待つ、幅約2メートル長
さ約100メートルにもなる膨大な鮎
の群れに圧倒されました。」興奮気味に
話す拙さんは、この時改めて佐々川の
素晴らしさを実感したそうです。

その後、佐々川は良形の鮎が多く
釣れる隠れた穴場として、遠くは東京
からも釣り人が訪れる川となってい
きました。



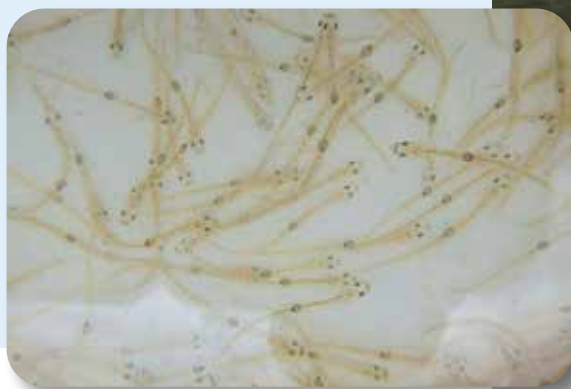


佐々川は多様な 生き物の棲み処

現在、佐々町役場がある周辺は、室町時代の1471年に干拓が始まりました。佐々駅から河口方面に広がる大きな水田は江戸時代になってから。

「室町時代の干拓が1475年に完成しますが、その時はまだ、佐々駅があるところから先は海だったんです。江戸時代の干拓で佐々川河口が沖に移動し、佐々川が約1・3キロ長くなりました。」まちの繁栄と共に長くなってゆく佐々川。

佐々町が村から町に変わるころまでは、佐々の中心は佐々橋を渡った山裾、佐々川の右岸沿いにありました。伊能忠敬が測量で佐々を訪れたとき、宿泊した本陣もありました。拙さんは、その跡地に建てられた記念碑を見ながら、忠敬の満68才の誕生日だったその日、盟友の坂部貞兵衛のささやかな心づかいがあったこと。また遊学のため平戸を目指していた吉田松陰が佐世保で大事な杖を置き忘れ、途中で引き返したため、江迎に明るいうちに入る予定が、佐々で暗くなってしまう大変難儀したエピソード等、聞かせていただき、その豊富な知識に驚かされます。



「町内で佐々川にかかる橋は9つあります。明治の初めまで橋はなく、人々は飛び石を使っていました。明治36（1903）年に佐々橋がかけられると右岸の橋周辺に、今でいうバスターミナルのようなものができ、佐世保方面や平戸方面へ向かう人々の往来で賑わいます。大きな病院、旅館、郵便局、銀行、役場もあり、ここが佐々のメインストリートだったのです。」舩さんは、まだ生まれる前の時代を、懐かしく思い出すように話します。

「佐々バス停は今も残っています。バスは一日に一往復、止まるのは2回だけ。でも記憶がいっぱい詰まったバス停です。この付近の佐々川には、うなぎ塚があり、10月に入ると漁が始まります。昔は塚を築く場所を入札で決めていました。一番お金を出した人が一等地の塚を手に入れることができた。ここで獲れるうなぎは、銀うなぎと呼ばれ、私の腕くらいあります。とにかく大きい。うなぎは海に帰るた

め、潮に身体をならす必要があります。その休憩場所がうなぎ塚。体が大きい分、味も別格。」と舩さんが笑います。

佐々名物「シロウオ」も、ちょうどうなぎ塚があるあたりで漁が行われます。「春になると足場となる台がズラリと並ぶのですが、早い人は12月から台を作って楽しみにしていますよ。」

漁は2月中旬から3月いっぱい。秋にはモクズガニも獲れるそう。水中に急降下して魚を捕るミサゴの数も増えているとか。極めつけは佐々川河口に広がる、生きた化石カブトガニの産卵場。まさに命はぐくむ佐々川の凄さを思い知りました。

上流から河口まで、約4時間かけて案内していただき、佐々川がいかに豊かであるかを学ぶことができました。舩さんにとっても、佐々川は泳ぎを覚えた場所。人々の成長を見守り続ける佐々川を弥生時代から現在まで、一気に駆け抜けた一日でした。

佐々町80年のあゆみ

← 1941

昭和16年 佐々町制を布く
昭和18年 区制を改め部落と称し29部落となす
昭和19年 国鉄松浦線全線開通
昭和22年 学制改革(6・3・3制)佐々中学校開校
昭和23年 佐々町公民館設置 佐々町農業協同組合創立
昭和25年 市の瀬窯跡が長崎県史跡に指定される

← 1951

昭和26年 町立診療所開設 佐々町商工会誕生、春の市開催
昭和27年 神田小学校開設 県立北松南高等学校開校 第一保育所開設(中央地区)
昭和29年 第二保育所開設(小浦地区)
昭和30年 上水道事業完成 給水開始
昭和32年 大水害発生、死者2人のほか負傷者がでる
昭和33年 狸山支石墓群が長崎県史跡に指定される
昭和35年 佐々炭鉱・小浦炭鉱閉山

← 1961

昭和36年 第三保育所開設(神田地区)
昭和37年 北松南部清掃一部事務組合設立、し尿処理開始
昭和38年 佐々・吉井塵芥処理一部事務組合設立
昭和41年 佐々小学校と神田小学校を併合し、佐々小学校とする
昭和42年 未曾有の大水害(激甚災害に指定)十数億円の被害を受ける
70年来の大干ばつにより山間部の水稻全減の被害を受ける
昭和44年 現在の役場庁舎完成

← 1971

昭和46年 NHKテレビ佐々中継局開局
佐々町に北松南部老人福祉センター(あけぼの荘)開設
SL(蒸気機関車)旅客列車廃止、ディーゼルカーに変わる
昭和47年 佐世保広域圏北部塵芥処理一部事務組合設立
昭和48年 門司鉄道管理局佐々機関区廃止
昭和49年 住民総合センター落成 口石幼稚園創設(定員40人)口石小学校へ併設
社会福祉法人佐々町社会福祉協議会発足



神田小学校
運動会



佐々炭鉱(鉱員の集合写真)



国鉄
松浦線

1941
History
2021

← 1981

昭和50年 佐々幼稚園創設（定員40人）佐々小学校へ併設
昭和51年 「町章」、「町花」を制定
昭和53年 観光協会第1回春まつり開催
昭和54年 町民体育館、武道館、中学校、広報無線総合落成
統合幼稚園、郷土資料館（図書室）完成

昭和56年 「町歌」、「町民憲章」制定

社会福祉法人さざなみ保育園開園 町内会発足（部落の呼称を変更）

佐々町浄水場供用開始

昭和57年 大雨被害、降雨量223.5mm、1時間最大80mm

昭和59年 古川岳遊歩道完成3,306m、佐々町文化会館落成

昭和61年 第1回わかあゆ少年駅伝競走大会 学童農園「童の里」落成

昭和62年 台風12号により被害（4億円余）

昭和63年 第3セクター松浦鉄道開業

平成元年 元号が平成になる

『さよなら李香蘭』干拓地口ヶ

平成3年 公共下水道事業認可

平成5年 皿山公園（西部自然公園）開園

平成6年 議会中継テレビ放映開始 未曾有の大洪水により平地部減圧給水

平成9年 公共下水道事業供用開始 総合福祉センター（福祉センター、健康相談センター）完成

平成10年 南部運動公園（サン・ビレッジさざ）オープン

平成11年 町立図書館オープン 町立診療所新築移転 学童保育開始（佐々小・口石小）

佐々栄町通り商工協同組合アーチ・モニュメント落成

平成12年 佐々川桜づつみ完成（1.8km）

平成14年 大雨被害低地浸水（降雨量325.5mm）佐々町・小佐々町法定合併協議会設置

平成15年 県立北松南高等学校の校名を清峰高等学校に改称 県立佐世保高等技術専門校開校

平成16年 佐々千年さくらの里植樹式

平成17年 佐々・口石学童保育施設完成 佐々皿山直売所完成

佐々町・小佐々町法定合併協議会解散

中央地区排水対策事業（総事業費45億円）に着手

平成19年 佐々バスセンター供用開始

平成21年 県立清峰高等学校野球部第81回選抜高校野球大会で優勝

平成22年 佐世保広域圏北部塵芥処理一部事務組合解散、佐々クリーンセンター単独運転開始



皿山まつり



佐々川
桜づつみ



佐々千年さくらの里植樹式



佐々町立図書館

佐々町総合福祉センター

佐々町80年のあゆみ

History of Saza

平成23年 佐々川大橋開通

農業体験施設（ファーム大岳）リニューアルオープン

西九州自動車道佐々インターチェンジ供用開始

平成24年 佐々町観光情報センターオープン

中央地区排水対策事業 中央地区1号雨水幹線供用開始

平成25年 佐々中央地区まちづくり事業完成

（中央海岸線3車線化、羽須和第2公園リニューアルなど）

でんでんパーク☆さざオープン

第1回佐々町三大花祭り開催

平成26年 町営神田団地2棟36戸完成

佐々町夏祭り花火大会「グラ・フェス」サン・ビレッジさざで開催

西九州自動車道松浦佐々間事業化

町内小中学校ICT化事業

平成27年 北松南部清掃一部事務組合解散、し尿処理民間委託開始

56年ぶりの宮中献穀事業

平成28年 総合防災システム（防災行政無線）運用開始

「佐々町」元気カフェ・ぷらっと」オープン

平成29年 佐々町地域交流センター供用開始

平成30年 西九州自動車道4車線化事業の事業着手

佐々町立佐々幼稚園閉園

「健康寿命をのばそう!アワード」において

厚生労働大臣最優秀賞を受賞

令和元年 天皇陛下が即位 元号が令和になる

町内小中学校の全教室にエアコン設置

令和2年 西九州さざ広域都市圏に加入

佐々町子育て世代支援センター「ぽっかぽか」開設

新型コロナウイルス感染症

流行拡大による緊急事態宣言の発令

令和3年1月町制施行80周年



「健康寿命をのばそう!アワード」
厚生労働大臣最優秀賞受賞



でんでんパーク☆さざ



佐々町観光情報センター



佐々町地域交流センター



西九州自動車道佐々インターチェンジ開通
（西九州自動車道開通記念フェスタ）

佐々町

今昔

いま・むかし

写真が語る
佐々町の今と昔

昔



今

佐々町役場



今



昔



佐々川

昔

佐々中学校



今



今

国鉄松浦線
(松浦鉄道)



昔



佐々町の街並・商店街

今

昔



※今と昔の撮影場所は一致するものではありません。



第2章

ときめく

ときめくまちは
人を支え
ちからを生む



豊かな自然が はぐくむ佐々川

町の中心を流れる佐々川は、水産物の宝庫です。

2月にはシロウオ漁が盛んに行われ、秋から冬にかけては、天然のうなぎを取る「うなぎ塚」が多く作られます。6月にはアユ釣りが解禁されることから、たくさんの人が訪れます。

神が降りる山 古川岳

西にそびえる古川岳は、古くから神が降りる山として崇められ、「降神岳」とも呼ばれていました。かつて自然の城跡として幾多の武将たちに重宝された山脈は、歴史的背景を活かして、遊歩道が設けられています。

道筋には古くから何力所にも観音像が祀られていて、当時の人々の思いが偲ばれます。



古川岳遊歩道



隠れた銘茶の産地

寒暖の差が激しい高原を活かし、昭和20年ころから開墾を始め、茶業が栄えてきました。

昭和40年ころからは開墾の機械化によって、茶園の開発が進み、現在では茶園を有する美しい高原が広がっています。

県下でも珍しい釜炒り茶や全無農薬・有機栽培茶などを生産する隠れた銘茶の産地です。



シロウオ漁



うなぎ塚

鮮やかな花の町

佐々川の河口沿いには約300本の桜が植えられており、2月下旬には早咲きの「河津桜」が見ごろに。同じ時期に「シロウオ漁」も最盛期を迎え、桜の下で見学や体験ができます。

皿山公園奥にある真竹谷は、「長崎県一のしだれ桜群」と言われ、11品種約60本のしだれ桜が美しい姿を見せてくれます。

さらに皿山公園にある菖蒲園は、県北一約2万株の花菖蒲が、6月になると美しい紫色の花を咲かせます。



河津桜(佐々川沿いの桜づつみ)



しだれ桜(真竹谷公園)



花菖蒲(皿山公園)

神田雅楽(町指定無形文化財)

明治中期、佐賀県西有田町(現有田町)曲川の桃谷自率和尚が神田に来て伝えたもので、物静かな中に荘厳な調べを奏でる古典邦楽です。

町慰霊祭や地域での葬儀・祝事に演奏されています。現在後継者の育成につとめ、保存会をつくるなど伝承文化の保存に努力しています。



スポーツを通して 暮らしイキイキ

テニスやバドミントン、バレエエクササイズにピラティス。日常の暮らしの中にスポーツを取り入れることで明るく健康的な生活を送れるよう、さまざまな運動教室や「体力測定＆ニュースポーツ」、小学校4～6年生を対象にした「サマーキャンプ」といったスポーツイベントなどの企画運営を行っています。発足は平成21年3月。現在は14人のスタッフと3人のサポーターが在籍。生涯スポーツ活動の定着を図る取組が評価され、令和



さざ俱樂部

元オリンピック選手の
田端健児さんによる
指導も



元年度には、代表の宮島眞知代さんが長崎県体育協会の体育功労者に選ばれました。近年力を入れているのが「佐々子スポーツ塾」。幼稚園の年長から小学6年生までを対象に、遊びを取り入れながら身体を動かす楽しさを伝えていきます。「運動能力やリズム感はもちろん、集中力も自然と身に付くようです。不思議と顔つきも変わって

ときめく佐々に欠かせない存在

笑顔が集まる 心の居場所づくり

人と人が寄り添って語り合う、ほっとくつろげる場所を。そんな思いから平成28年6月に佐々町総合福祉センター2階に、誰でもぶらっと遊びに来れる交流の場としてオープンしました。代表の福田修三さんが大切にしているのは、家にこもりがちの高齢者の居場所づくり。「ここに来るためにおしゃれをする。楽しくおしゃべりをして笑う。高齢者が元氣だと町も元氣になると思っています。」と福田さんは話します。午前中の講話や体操



町内会長や民生委員も務める代表の福田修三さん
(後列右から3番目)

元気カフェ ぷらっと

野菜たっぷり栄養バランス
を考えた料理も楽しみの1つ



には、毎回30人ほどが参加。地元の食材を使った日替わりランチを食べた後からは自由時間。折り紙や習字などをしながら和気あいあいと過ごします。この活動を支える約40人のスタッフに加え、地域包括支援センターなど行政とも連携しながら町ぐるみでサポート。平成30年には「第7回健康



「行ってきます〜!」と元気いっぱい



佐々子 応援団

代表の
池田隆良さん

**地域ぐるみで
子どもの育ちを応援**

学校と家庭、地域が連携し、地域ぐるみで佐々町の子どもの育ちを応援する組織です。「あいさつ日本一、マナーアップ運動」をスローガンに、平成25年に発足しました。参加している団体は、佐々町青少年健全育成会、佐々町民生児童委員協議会、佐々町老人クラブ連合会、佐々町地域婦人会など多数あります。主な活動は、登校中の児童生徒の安全を守る朝の見守り運動です。信号機が無い横断歩道や線路の近く、朝の通勤で交通量が多い場所は、特に気を付けているそう。「寒い日も暑い日もあ

りますが、子どもたちが元気に挨拶を返してくれることが嬉しいですね。」と代表の池田隆良さん。教育委員会のスタッフと広報車に乗って、佐々小学校、佐々中学校、口石小学校のルートで「佐々子応援団です、おはようございます。」とアナウンスをしながら安全パトロールをしています。「地域に守られながら育つ子どもはよく育つと思います。これからも子どもたちのために活動が続けていきたいです。」と池田さんは語ります。

通学路全域を走る
安全パトロール



子どもたちの能力やペースに合わせてスタッフがサポート

きますよ。」笑顔でそう話す宮島さんも子どもたちと一緒にさわやかな汗を流します。目指すは「町民ひとり1スポーツ」。これからも健やかな体づくりを通して、心身ともに豊かな生き方を応援していきます。

佐々町の豊かな土壌にちからをもらい、佐々をとときめかせる存在がいます。



地域包括支援センターや健康相談センター、社会福祉協議会による講話が行われています

寿命をのばそう!アワード(介護予防・高齢者生活支援分野)で厚生労働大臣最優秀賞を受賞しました。「ここに来るとが一番の楽しみ。」利用者からの言葉と笑顔が、原動力となっています。



さざ俱樂部



元気カフェぶらっと



佐々子応援団



子育てひろばぶくぶくクラブ

ときめく佐々に欠かせない存在



ママも一緒に遊ぶと自然と笑顔に



代表の
岩本ます子さん

子育てひろば ぶくぶくクラブ

安心して遊べる 「屋根のある公園」

佐々町と近隣市町の未就学児と家族が利用できる子育てひろば。室内には、ミニすべり台やミニピアノ、ままごとキッチンなど子どもが楽しめる遊具がたくさん。子ども同士で遊んだり、ままごとをしたり、ベビーベッドでお昼寝する赤ちゃんも。スタッフが見守る中で、安心して遊んでいます。「親同士、子育ての情報交換の場として利用してもらっているようです。私自身も子育て中は孤立を感じていた経験も。悩みがあっても『うちも同じだよ。』とか、同じ子育て中の世代同士で話すことで、案外すっきりできることもたくさんあると思います。もっと気軽に利用してほしいです。」

です。」「と代表の岩本ます子さんが。隣のスペースで預かり保育も行っています。「授業参観や町主催の子育て教室などの預かり保育費用は、町が負担してくれるんですよ。佐々町は子育て支援が充実しています。これからの10年後、20年後の親子の幸せを願って、子育てひろばとして活動を続けていきたいです。」



ベビーマッサージなどのイベントも

第3章

きらめく

まちをつくるのは人
きらめく人が
まちを未来へと
つなげていく



Uターン

町も自然も教育も、
ちょうどいい町。

石井 秀樹さん



ここが私たちの好きな場所

We ♥ 佐々

横田さんも石井さんも佐々町の
中学・高校と同じ時間を過ごした同
級生。卒業後は、お二人とも東京へ
出るも、家族の事情などで帰郷しま
す。佐々町に戻ってきてから見えて
くる故郷のこと。スポーツの指導者
として活躍されるお二人に佐々町
について語っていただきました。

横田さん

東京に5年いましたが、家業を継ぐ
ために帰ってきました。ある時、知り
合いの空手指導者から、手伝ってほし
い、と声がかかりまして、何か役に立
つのであればと引き受けることになっ
たのです。ちょうど24歳の時でした。
私は子どもの頃から空手をやっていま
したので、選手としての経験はありま
した。しかし指導する立場になるとま
だまだ未熟で、引き受けてからは日々
勉強でした。それから「佐々町スポー
ツ少年団」と「佐々町体育協会」に入会
し、もう25年間も指導を続けています。

石井さん

私も今、空手の指導を行っており、
現在は「佐々町空手道部」の部長をし



ています。空手との出会いは、まさに
横田先生との再会にありました。横田
先生は私の師匠になりますので、先生
と呼ばせていただきます！

15年間過ごした東京から家族ととも
に佐々に戻ってきたのですが、最初は
空手をするなど、一切頭にはありませ
んでした。ところがある日、横田先生
にばったりと出会い「子どもたちを空
手の見学に連れておいで」と誘いを受
けたのが始まりです。練習場に見学に
行くと、子どもが、やりたい！と目
を輝かせました。横田先生は社会人
向けの指導もされていたので、自分も
やってみようとなり、今に至ります。

横田さん

石井先生も、今では立派な指導者で
す。スポーツを指導するにあたって、
自分なりの理念を持っています。挨拶
をすること。「はい！」という返事が
できること。呼ばれたら急いで走って
くること。つまり、「挨拶 返事 機
敏な行動」の3つが大人になるために
一番重要だと、常日頃から子どもたち
に言っています。人間としての基礎が
ちゃんとできてさえいれば、スポーツ

定住

スポーツが人をつくる。
新しい佐々をつくる。

横田 博茂さん

佐々に暮らすということ。家族と心地いい暮らしをするということ。
山と川に恵まれた豊かな自然と、人々の優しさが伝わるこの町の魅力を
移住者と定住者の方にお聞きしました。

の質も向上し、立派な大人になれる。そのような子どもたちが成長し、佐々町に戻ってきてくれたら、またここで新しい指導者となり町を活性化してくれるでしょう。今、私ができることは「スポーツの町・佐々」への貢献です。

石井さん

熱い横田先生の指導のおかげで、昨年度は私の娘を含む4名の選手が、佐々から全国大会に出場することができました。とても嬉しいことです。さらに、佐々町の遠征に関する援助金は全体の3分の2と、とても手厚く、スポーツ選手を育てようという町の意味を感じます。

横田さん

確かにそうですね。佐々町には7つものスポーツ施設がありますし、子どもも大人もお年寄りも体を動かすことを楽しんでいるように思います。それは町の健康を守ることにもつながっているように感じます。

石井さん

スポーツ施設もそうですが、主要な公共施設がほぼ徒歩圏内にありますし、

学校教育にも熱心な人々が多い。文武両道である佐々の強みですね。学校、病院、ショッピング関係も揃い、町の規模もコンパクト。西九州自動車道もつながって佐世保市などへの交通アクセスも便利になりました。ちょっとした町だと実感しています。

横田さん

ちょうどいい町。確かにそうですね。これは私の考えですが、交通アクセスがよくなったので、大きなスポーツ大会が佐々で開催できれば...と思っています。選手を含めた子どもたちが300人参加すると、それと同じ数ほどの親も一緒に訪れます。それだけでも十分な集客になります。さらに、清潔で機能的な会場であったり、大会スタッフの質がよかったりして、この町いいなあと感じてくれたら、また訪れてくれるかもしれません。なにより、それをSNSや口コミで拡散してくれたら、それが町のPRになります。スポーツを通して佐々の町にできることを、これからも考え続けていきたいです。





移 住

青空が広がる 憧れの佐々へ

板垣 勇さん

島根県出雲市で教師をしていた板垣さんは、薙刀なぎなたの競技で、全国レベルの選手を育ててきました。その指導力をかれ、「長崎がんばらんば国体」に向けた選手強化の指導者として平成23年に初めて長崎を訪れます。「長崎に住むことになってから、改めて長崎県の教員採用試験を受けました。合格してからは松浦高校の薙刀部の指導をしています。」板垣さんは、家族を呼び寄せて新たな生活をはじめめる場所をどこにするか、いろいろ探したと言います。「佐々川に流れる心地良い空気、田畑が広がる豊かな自然、子どもを育てるにはよい環境だと思い、妻に風景写真をメールしました。」奥様からの反応もよく、まだ生後1歳にも満たない乳児を含め、家族5人での佐々暮らしが平成24年から始まります。

「雲が広がりやすい日本海側の出雲

市と違って、佐々に広がる青空に感動しました。それに、幼稚園も銀行も病院も徒歩圏内で行けるコンパクトな町であることも、とても便利な町だなと実感しています。もっと言えば、佐々川で春に獲れるシロウオの美味しいこと！踊り食いには、子どもたちに命をいただく大切さを教えるいい体験にもなっています。これは佐々でしか絶対できないですよ」と板垣さん。「佐々に住んでもう10年になろうとしています。子どもたちが伸び伸びと成長している姿を見ると、この町に来てよかったと思います。」

薙刀の指導者として、毎年チームをインターハイ入賞へと導き、自身も令和元年には世界大会に出場。2つの形の種目で優勝するなど活躍を続ける板垣さん。原動力は、豊かな自然と心地いい空気が流れる佐々にありました。



定 住

子どもへの 手厚い教育が魅力

松瀬 大高さん

中学校の教員として長い間、教育に携わってこられた松瀬さんは、校長を歴任し、退職後も町の教育長を務めるなど、子どもたちを見つめ続けてこられた教育者です。「佐々町の良いところは、子どもの教育に熱心なところでしょう。毎朝、通学を見守る『佐々っ子応援団』という活動があります。登校時の見守りに加え、通学路の定期的な点検もやっているようです。私も毎朝、家の近くで子どもたちの通学を見守っています。」

松瀬さんは、週に2度、サポートティーチャーとして小学校に通い、放課後に児童の学習支援をしています。「地域の人々が様々な活動で子どもたちをサポートしているところが素晴らしいと思います。」と佐々の魅力を語ってくださいました。

また、環境にも恵まれていると松瀬



ICTを利用した わかりやすい授業

佐々町の小中学校は、平成26年度から全教室に電子黒板を設置するとともに、令和3年度からは児童生徒一人に1台のタブレットを整備しました。

授業支援システムやデジタルコンテンツやインターネットを利用したりして、子どもたちの学力向上に取り組んでいます。



暮らし Life

特別支援教育の 充実

全小中学校には障害種に応じた特別支援学級を設置し、それぞれの特性に応じた教育を少人数の学級で行うほか、普通学級への交流学習も多く行っています。

また、支援員を配置し、普通学級の学習で理解が不十分であったり、つまづいている子どもの学習を補助します。

さらに県立佐世保特別支援学校と連携・協同した定期的な研修会の開催による教員の資質向上に取り組んでいます。



まち全体で

子どもたちを育てる

学校と保護者や地域の皆さんが一体となって、子どもたちを育む「コミュニティ・スクール」に取り組んでいます。

民生委員や地域の方々、退職校長会等が、サポート・ティーチャーとして学習の補助を行っています。

また、学習面だけではなく、総合的な学習として、昔遊び教室や、家庭科の調理・裁縫の授業サポートとして、老人会や地域婦人会も参加しています。

安心して子育てができる環境を

佐々町子育て世代支援センター「ぽっかぽか」では、妊娠期から子育て期まで一人ひとりの気持ちに寄り添いながらサポートを行っています。

すべての妊婦さんを対象に家庭訪問をし、妊娠・出産に向けて悩みごとや困りごとなどの支援を行い、出産後もすべてのお宅に保健師が訪問し、赤ちゃんの体重測定、お母さんや赤ちゃんの体調・育児の相談、予防接種の説明などを行っています。

子育てについての悩みや、就学に向けての不安など、総合的に受け付けています。お子さまが遊べるスペースを設けた、相談コーナーも設置しています。

「ぽっかぽか」イメージキャラクター ひなぽか



相談コーナー

健診を通じた健康づくり

生活習慣と深く関係がある、生活習慣病を自覚症状がないうちに発見し、病気の予防や重症化を防ぐとともに、各種がんの早期発見につなげるため、佐々町では、対象となる年齢の方は無料で検診を受けることができます。



多世代交流で

繋がりのある町へ

福祉センター1階にある「ぶくぶくクラブ」は、子育て中の同じ世代との交流や、スタッフへの相談ができ、お友達と遊んだり、季節の行事を楽しむことができます。同じ施設の2階には、高齢者をはじめ誰でも参加でき、楽しく仲間づくりができる「元氣カフェ・ぷらっと」があります。イベントやワークショップでは、「ぶくぶくクラブ」の子どもたちと世代を超えた交流が行われています。



整備された公共施設

豊かな自然を活かした公園や、地域の人々が集うことができる場所など、交流の場としての施設が充実しており、様々な世代が繋がることで、町民が健康で、孤立することのないような取り組みが考えられています。



サン・ビレッジさざ



佐々町総合福祉センター



生涯現役の 生きがいを

「いきいき百歳体操」は、地区集会所を活用し、住民全体の介護予防活動として展開しています。体力に自信がない方も参加でき、その方々の頑張る姿が更に支えとなっています。

男性や介護者の方が参加される料理クラブでは、楽しくにぎやかに料理を学びます。健康づくりやフレイル（虚弱）予防を学ぶ、活動の場となっています。

閉じこもりや孤立を防ぐことを目的とした活動は、町全体で広がりを見せています。



佐々町立図書館



皿山公園



佐々町地域交流センター



でんでんパーク☆さざ

未来へ きらめく 佐々町

佐々町の未来を生きる

子どもたちは、

どんな夢をもって

いるのでしょうか。

小学4年生の子どもたちに
「20年後の佐々町未来予想図」を、
大人に近づいている
中学生の子どもたちには、
「佐々町に対する想い」を標語で
表してもらいました。

絵画

20年後の佐々町

未来予想図

未来への夢があふれる子どもたち（小学4年生を対象）に、「20年後の佐々町未来予想図（小学生絵画コンクール）」を募集しました。

特別賞「町長賞」



ナイト佐々川 人も魚もい〜っぱい

口石小学校 4年2組 谷川 由衣さん

もっと、きれいな佐々川になるように、願いをこめて、佐々川研究所を作りました。夜の佐々川はライトアップもされて、みんなが泳ぎたくなるような川になっています。佐々川には、生き物もたくさんで、「ナイト佐々川」はにぎわっています。こんなすてきな佐々町になっていたら、とってもうれしいです。

標語

佐々町に 対する想い

未来を担う子どもたち（中学1・2年生を対象）に、ふるさと佐々町への愛着や誇りを標語として表す「佐々町に対する想い（中学生標語コンクール）」を募集しました。

特別賞「町長賞」

自然豊か 笑顔の花を 未来の佐々へ

佐々中学校2年2組 中村莉緒さん



いつまでも 明るい佐々町

佐々小学校4年2組 伏見屋 日向さん

20年後の佐々町が、今よりもっと明るい町になったらいいなと思いました。商店がいがいたくさんのお店でにぎわい、みんなが楽しめるキャンプ場があつて、佐々川で泳いだ後は温泉で温まることができるいいなと思いました。歩いて行けるところに大きな遊園地ができて、たくさん遊びたいです。

特別賞「教育長賞」

特別賞「教育長賞」

佐々町の 心よ川よ 清らかに

佐々中学校 2年4組 古荘 一樹さん

優秀賞

佐々川は 今も未来も 故郷の景色

佐々中学校 1年3組 芦塚 陽菜さん

優秀賞

楽しい20年後の 佐々町

口石小学校
4年1組
坂本 風希さん



未来の佐々町に願いをこめて...

口石小学校 4年3組 末永 紗菜さん



みんなにこにこ虹色佐々町

口石小学校 4年3組 井上 莉麻さん

豊かな自然 溢れる人情

我らが佐々町

佐々中学校 2年1組 奥野 めいさん

入賞

佐々川の 自然の恵み お守りだ

佐々中学校 1年3組 山口 虎さん

80年の 歴史と誇り 佐々町文化

佐々中学校 1年4組 平井 聡希さん

シロウオが 喜び泳ぐ 佐々川だ

佐々中学校 1年4組 日高 優吾さん

シロウオが けたけた泳ぐ 佐々川で

佐々中学校 2年1組 荒井 伸紘さん

入賞



車でいっぱい！

佐々小学校 4年1組
中里 淳之介さん



20年後の佐々小学校

佐々小学校 4年1組
浦 優梨子さん



いそげ
佐々川魚レース

〇石小学校 4年2組
田中 友愛さん



町の人口もお店の数も
日本一！

〇石小学校 4年1組
日野 綺乃さん



笑顔さく佐々町

佐々小学校 4年2組
前田 依応律さん

ごあいさつ

佐々町は、昭和16年1月1日に佐々村を佐々町として町制を施行し、今年で80周年の節目の年を迎えました。

昭和16年当時、長崎県内には、4市38町127村の169市町村があり、村制から町制へ移行する多くの自治体がありました。

当時の佐々町の人口は約15,300人でしたが、炭鉱の急速な発展に伴い、昭和25年頃には、約20,200人の人口を有するまでに繁栄しました。その後、昭和30年代半ばから40年代半ばにかけて石炭産業の衰退によって約11,000人までに人口が激減し、町の活力は大きく低下することになり、過疎化の一途をたどりました。

昭和50年代以降、農業の振興や商工業の発展、企業誘致や西九州自動車道の開通などにより、町の活気も回復し続け、現在では14,000人を超える人口となっています。

佐々町は、周囲を山々に囲まれ、佐々川の清らかな流れや四季折々の花々に彩られる、美しい自然環境に恵まれています。また、佐々駅や佐々バスセンター、西九州自動車道佐々インターが立地するなど、県北各地域を繋ぐ交通の要衝でもあり、商業施設が数多く進出するなど、自然と生活が調和した快適で住みやすいまちでもあります。

私たちは、郷土を想う先人たちの英知とたゆまぬ努力に心から感謝と敬意を表するとともに

これを継承し、誇りあるふるさとへと発展させていかなければなりません。

今回、町制施行80周年を迎えるにあたって、『未来へ』をテーマに町勢要覧を発行いたしました。

人と自然がさざめき、ときめくまちが力を生み、きらめく人がまちを未来へと繋げていく。そのような未来への希望あふれる佐々町を、町民皆様お一人お一人と手を携え、築き上げていきたいと考えております。

これからも、町民の皆様と共に、90年、100年に向けて、魅力あるまちづくりに取り組んでまいりますので、ご指導とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

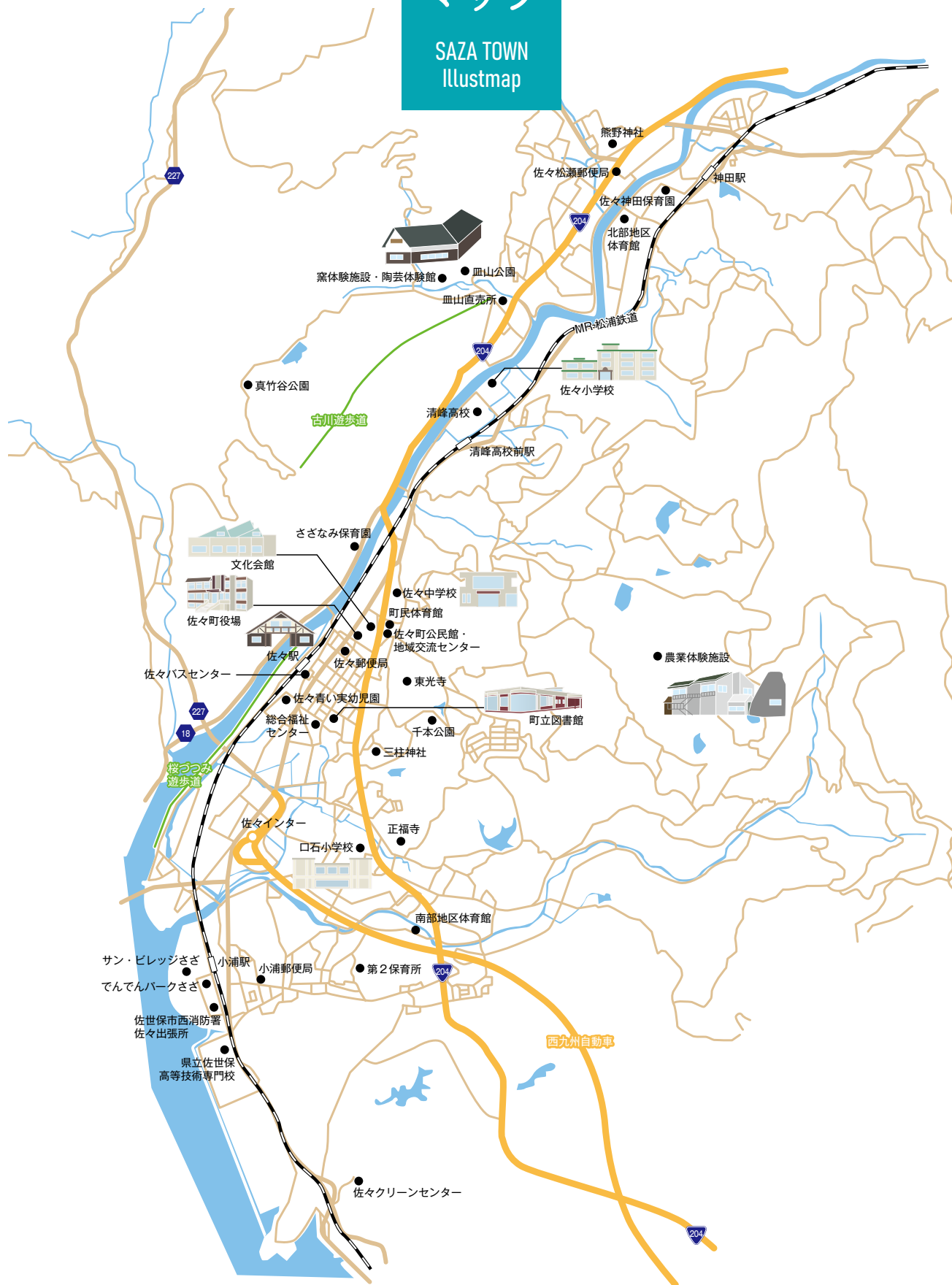
令和3年3月



佐々町長
古庄 剛

佐々町 マップ

SAZA TOWN
Illustmap



※掲載している写真は、新型コロナウイルス感染症拡大以前のものを使用しているものもあります。また、撮影の際も新型コロナウイルス感染症対策を行っています。



町制施行 80 周年記念
長崎県佐々町町勢要覧

発行

長崎県佐々町

〒857-0392

長崎県北松浦郡佐々町本田原免 168-2

TEL 0956-62-2101 / FAX 0956-62-3178

<http://www.sazacho-nagasaki.jp/>

E-mail:kikaku@saza.nagasaki.jp

発行日

令和 3 年 3 月

企画

佐々町 企画財政課

印刷

川口印刷株式会社